

## 第2章 施策の状況

### 基本目標3

#### よりよい未来社会を創造する力の育成

- 1 キャリア教育の充実
- 2 四日市の資源を生かした教育の推進
- 3 持続可能な社会を目指す教育の充実
- 4 防災・安全教育の推進

子どもたちが夢や志を持ち、その実現に向けて行動に移していくためには、主体的に自ら学ぶ意欲と、他者との人間関係を形成するためのコミュニケーション能力を育成する必要があります。

地域に愛着と誇りを持ち、持続可能で暮らしやすい未来社会を担う自立した人間に成長できるよう、四日市ならではの地域資源を効果的に生かし、日々の学校生活全体をキャリア教育の視点で捉えながら、社会のつながりを意識した教育活動を進めます。

1 キャリア教育の充実

＜めざす子どもの姿＞  
自分を見つめ新たな目標に向かって意欲的に取り組む子ども

体系的なキャリア教育の取組を通して、子どもたちが社会の中で自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現し学び続けるために、「何のために学ぶのか」という目的意識の向上を目指します。また、「夢や志の実現」に向けて、子どもたちに「学ぶこと」と社会とのつながりを意識した主体的な学習意欲を持たせ、社会的・職業的自立に向けて必要な「4つの基礎的・汎用的能力」※1を育成します。

※1 <基礎的・汎用的能力を構成する4つの能力>

- ・人間関係形成・社会形成能力（つながる力）：他者の個性を理解する力、コミュニケーション・スキル等
- ・自己理解・自己管理能力（みつめる力）：自己の役割の理解、自己の動機づけ、忍耐力、主体的行動等
- ・課題対応能力（うごく・いかす力）：情報の理解・選択・処理・課題発見・計画立案・実行力等
- ・キャリアプランニング能力（めざす力）：学ぶこと・働くことの意味・意義の理解、生き方の多様性の理解等

◆指標とその評価

指標	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値	R4 評価
「将来の夢や目標を持っている」と肯定的な回答をした児童生徒の割合	小学校	小学校					小学校	↓ ↑
	82.0%	77.3%					85%	
	中学校	中学校					中学校	
	70.0%	70.5%					75%	

【評価】

小学校では肯定的な回答をした児童の割合は減少している。コロナ禍において、体験的な活動が制限されていたことが一因と思われる。中学校では多様なゲストティーチャーを招いた授業や丁寧な進路指導によって、高い割合を維持することができた。

◆具体的な施策の現状

1. 発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育の推進

実施状況	実績・成果
四日市版キャリア・パスポートの活用推進	<p>&lt;四日市版キャリア・パスポート推進モデル校&gt; 橋北小・橋北中</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・四日市版キャリア・パスポート活用実践事例の市内小中学校への発信</li> </ul>

◆評価

四日市版キャリア・パスポートの活用方法等について、実践研究・検証を進めるために推進モデル校を指定した。推進校における児童生徒自身が基礎的・汎用的能力（4つの力）を意識した授業実践や、自己の可能性や適性の自覚を促すキャリアカウンセリング※2の実践等を市内小中学校へ発信した。

◆今後の方向性

【継続】これまでの取り組みを継続するとともに、四日市版キャリア・パスポートの効果的な活用方法を含め、発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育の推進に向けての研究を進める。

※2 児童生徒の将来の生き方や進路に関する悩みや課題を受け止め、自己の可能性や適性を自覚させるための教員との対話のこと。また、児童生徒との日常的な活動の中で行われる、キャリア発達を促すという意図をもった教員からの児童生徒への働きかけや対話のこと。

2. 一人一人のキャリア形成を目指した教育活動の充実

実施状況	実績・成果
<p>地域の人材や資源を活用した、他者との関わりから学ぶ体験的な活動の推進</p>	<p>&lt;小学校&gt;            職場見学、農林水産体験、職場体験、社会人講師や卒業生を活用した取組等            &lt;中学校&gt;            職場体験、プレ社会人セミナー、社会人講師や卒業生を活用した取組等</p>

◆評価

新型コロナウイルス感染症に伴い、計画通りに実施することが難しい状況ではあったが、職場体験学習、プレ社会人セミナー、職場見学等を通して、現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成、勤労観・職業観の醸成や社会参画意識を高めることにつながる機会を設けることができた。

◆今後の方向性

【継続】子どもたち一人一人のキャリア形成を目指す教育活動の充実に向けて、これまでの取組を継続するとともに、子どもたちが学ぶことと社会とのつながりを意識し、他者と協働しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な「基礎的・汎用的能力」を育むことができるように取組を進める。



職業体験学習（小学校）

2 四日市の資源を生かした教育の推進

〈めざす子どもの姿〉  
地域に愛着を持ち、持続可能な社会を創ろうとする子ども

本市は、産業と環境、文化が調和するまちです。このような四日市ならではの歴史・文化・自然といった地域資源および高度なものづくり産業を教育に生かすことにより、ふるさと四日市に誇りと愛着を持ち、グローバル化する社会の一翼を担う人材を育成するための教育を推進します。

◆指標とその評価

指標	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値	R4 評価
①見学をとおして、ふるさとへの愛着をもつことができた児童生徒の割合	小学校 85% 中学校 80%	100% (※1)					小学校 95% 中学校 90%	➡
②見学をとおして、星や宇宙に対して興味・関心を示すことができた児童生徒の割合	小学校 85% 中学校 80%	— (※2)					小学校 95% 中学校 90%	—

※1 見学をとおして、地域の歴史について興味や関心を深めたり理解を深めたりすることができたと回答した学校の割合。

※2 施設工事による休館等、利用の制限があったため、R4については数値なし。

【評価】

学芸員やボランティアガイドによる分かりやすい説明を交えた現地での学習効果を多くの児童生徒、教員に感じてもらい四日市のよさや魅力に触れさせることができている。

◆具体的な施策の現状

1. 地域の自然・歴史・文化等を活用した教育の充実

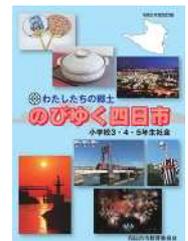
実施状況	実績・成果
○小学校社会科副読本「のびゆく四日市」を活用した学習の取組	「のびゆく四日市」のデジタル教材の作成

◆評価

四日市ならではの産業・文化・歴史等について興味・関心を高めるとともに、より深い学びにつながるように、「のびゆく四日市」のデジタル教材の中に「万古焼の工程」「お茶づくり」などを動画で視聴できるようにした。

◆今後の方向性

【継続・新規】学習に必要な動画や写真を増やしていく予定である。また、「のびゆく四日市」を活用したよりよい授業をめざし、研修会等を実施していく。



## 2. 博物館がもつ地域資源を活用した郷土教育の充実

実施状況	実績・成果
<p><b>体感的な展示を用いた学習支援</b></p> <p>○学習支援展示の実施 博物館が所有する資料を用いた学習支援展示（「四日市空襲と戦時下の暮らし」「昭和の暮らし」）において、展示期間中にワークショップを実施</p> <p>○学校との授業連携 ・見学のしおりの作成 ・体験コーナーや再現展示の充実 ・3DVRを使った学習支援</p>	<p>&lt;学習支援展示ワークショップ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「四日市空襲を語り継ごう」 (参加小中学生 16名)</li> <li>・「むかしの道具」 (参加小中学生 15名)</li> <li>・「昭和のあそび」 (参加小中学生 54名)</li> </ul> <p>&lt;学校との連携&gt; 3DVRをホームページ上で公開</p>

### ◆評価

「昭和の暮らし」展では、新たな取組として、昨年度作成した展覧会場の3DVRを事前学習の資料としてホームページに公開した。見学の事前指導や児童の振り返り指導に活用されており、これまで以上に高い学習効果を上げることができた。「昭和の暮らし」展の市内小学校見学の観覧者は新型コロナウイルス感染症による制限の緩和等の影響によって、昨年度の1,591名（20校）から1,866名（26校）へと増加した。

### ◆今後の方向性

【継続】観覧者数を増やすための工夫を今後も継続して進めていく。今年度取り組んだ展覧会場の3DVRの活用などについては更に検討が必要である。

## 3. プラネタリウム施設を生かした理科教育への関心・意欲の向上

実施状況	実績・成果
<p><b>小学校を対象とした学習投映</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各校の校庭からみた星空を再現した星空観察</li> <li>○環境学習番組「アースメッセージ」を活用した四日市公害や地球環境についての学習投映</li> <li>○学習支援展示「昭和の暮らし展」と連携した昭和時代の道具の星座と地域の行事を紹介する学習投映</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境学習 (利用者数 8校 626名)</li> <li>・天体学習 (利用者数 5校 480名)</li> <li>・学習支援展示学習 (利用者数 5校 378名)</li> </ul>
<p><b>中学校を対象とした学習投映</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「四日市公害と環境未来館」と連携した学習投映</li> </ul>	<p>中学校の見学が中止となったため、学習投映については実施できなかった。</p>
<p><b>学びの保障に関わる取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習投映を利用できない学校に対して行う移動天文車「きらら号」の派遣及び天文教室の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きらら号の派遣 (利用者数 6校 661名)</li> <li>・天文教室の実施 (利用者数 2校 256名)</li> </ul>

◆評価

学習投映の利用者数は、9月から2月中旬までの工事による休館や、市内中学校の見学が代替学習になったことなどの影響により、昨年度の2,364名28校から1,484名18校へと減少した。移動天文車きらら号の派遣及び天文教室の利用者は、昨年度の142名2校から917名8校へと増加した。学習投映を活用できない学校への学びの保障に取り組むことができた。

◆今後の方向性

【継続】学習支援展示「昭和の暮らし展」「戦時下の暮らし展」にあわせた利用促進と、より深い学びの機会を提供していく。移動天文車きらら号及び学芸員による天文教室を実施し、学びの保障に取り組んでいく。四日市公害と環境未来館との連携を深め、環境学習番組をより活用していく。

4. 久留倍官衙遺跡公園の活用促進や学習プログラムの開発

実施状況	実績・成果
<p>地域資源である公園や歴史館を活用した遠足や社会見学、出前講座の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学芸員や公園ボランティアガイドの説明を聞くことで、当時の遺跡の様子を知ったり、人々の思いを想像したりする社会見学の実施</li> <li>○木簡体験や勾玉づくりなど当時の仕事や生活の様子を体験することができる講座の実施</li> </ul>	<p>&lt;公園や歴史館を活用した学習&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遠足 2校 451人</li> <li>・社会見学 8校 11回 686人</li> <li>・地域歴史学習、地域貢献学習 2校 109人</li> </ul> <p>&lt;出前講座&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木簡体験、勾玉づくり、歴史学習 5校 12回 461人</li> </ul>

◆評価

公園や歴史館を活用した学習では、学芸員やボランティアガイドによる分かりやすい説明を交えた現地での学習効果を多くの児童や生徒、教員に感じてもらうことができた。遠足や社会見学による来園だけではなく、木簡体験や勾玉づくりなどの出前講座、さらに中学校においては、地域歴史学習や公園および周辺の清掃等地域貢献学習の場としての活用に供することができた。

◆今後の方向性

【継続】施設を活用した学習の充実を目指し、久留倍官衙遺跡公園管理活用委員会や利用校へアンケート等を実施して意見や情報の収集を行う。また、より多くの学校で施設や学習プログラムを活用できるように、プログラムの活用促進・開発を行うとともに、学習内容への興味関心が高まるよう、ホームページやSNSの掲載内容を充実させるなど、情報発信の工夫を行う。



5. 企業等と連携した学習の充実

実施状況	実績・成果
<b>企業等と連携した出前授業等の実施</b> ○実生活や実社会と教科の学習内容とのつながりが実感できる授業を実施	<実施教科等> 理科、社会、家庭、総合的な学習の時間 <連携企業> 25 企業 <出前授業等実施企業> 14 企業 <実施校> 小中 16 校 計 23 回

◆評価

各企業の特色を生かした出前授業を実施することで、ふるさと四日市の高度なものづくり産業について多くの児童生徒に知ってもらえる機会となった。出前授業を単元に位置付けて実施できている学校も増えてきた。

◆今後の方向性

【継続】企業の特色を生かした出前授業を実施することにより、子どもたちが教科の学習内容と実社会とのつながりを実感し、主体的に学習することができるように、企業と打ち合わせしながら連携授業を進めていく。



6. JAXA（宇宙航空研究開発機構）と連携した学習の充実

実施状況	実績・成果
<b>JAXAと連携した授業の実施</b> ○宇宙に関わる豊富な映像と最新の科学技術や情報をもとに、宇宙への夢が広がり、知的好奇心を喚起する授業を実施	・理科、プログラミング、キャリア教育の内容にて、小中5校で実施

◆評価

JAXA職員と連携して授業を実施し、児童生徒の素朴な疑問にも答えてもらうことで、宇宙を身近に感じることができた。

◆今後の方向性

【検討】これまで、平成24年に本市がJAXA宇宙教育センターと締結した宇宙教育連携に基づき、JAXAと連携した授業を実施してきた。しかし、JAXAの宇宙教育連携事業の方針変更により、令和6年度以降における協定内容の見直しの申し入れがあった。これに伴い、令和5年度中にJAXAと協議の上、連携方法や内容について検討する。



3 持続可能な社会を目指す教育の充実

＜めざす子どもの姿＞  
社会的な課題への問題意識を持ち、解決しようとする子ども

社会の在り方が大きく変化する中、「新たな日常」に向けた社会変革の推進力となる人材や、地球規模の課題を自分事としてとらえ、何ができるかを主体的に考える力を持つ人材が求められています。

SDGs<sup>※1</sup>の実現に向けて、ESD<sup>※2</sup>を推進し、日常生活の中で子どもたちが隣り合わせている身近な課題を、地球規模の課題と結び付けて自分事として考え、その解決に向けて自ら行動を起こす力を身に付け、「持続可能な社会」をつくろうとする子どもの育成を目指します。

※1 国連サミットで採択された「誰一人取り残さない」社会の実現を目指した17の目標。

※2 現代社会の問題を自らの問題として主体的に捉え、持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動。

◆指標とその評価

指標	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値	R4 評価
①「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」と肯定的な回答をした児童生徒の割合	小学校 55.7% 中学校 42%	小学校 50.7% 中学校 43.4%					小学校 60% 中学校 70%	
②「地球環境を守るための行動をしたいと感じるようになった」と肯定的な回答をした児童生徒の割合	小学校 85% 中学校 80%	— <sup>※3</sup>					小学校 95% 中学校 90%	—

※3 施設工事による休館等、利用の制限があったため、R4については数値なし。

【評価】

肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校は5.0%減少している。また、中学校は1.4%増加しているが、肯定的な回答の割合が低い。その要因の一つとして、地域行事等の制限があったことにより、子どもたちが地域行事に参加できなかったことが考えられる。

◆具体的な施策の現状

1. SDGsの理念を踏まえたESD教育の推進

実施状況	実績・成果
○カリキュラム・マネジメントを意識したESDカレンダーの見直し	・教職員対象研修会 1回 ・ESDカレンダー作成のための研修用動画を作成

◆評価

各校で作成しているESDカレンダーをSDGsの視点を取り入れた教科等横断的なものとするため、作成時の参考となる研修動画を作成した。また、教職員対象の研修会では、教師自身が持続可能な社会とはどのような社会かをカードゲームを通して体験することで、これからの社会を生き抜く子どもたちに、どんな力が必要なのかを考えることができた。

◆今後の方向性

【継続】教科等横断的な取組としてESDを充実させるために、各校におけるESDカレンダーの見直しを継続して行っていけるよう、教職員研修を通して指導する。さらに、子どもたちが学んだことをキャリア・パスポートに蓄積し、キャリア形成につなげていけるよう取組を推進する。

2. 四日市の歴史を正しく学び、後世に伝える教育の推進

実施状況	実績・成果
<p>「四日市公害と環境未来館」見学支援</p> <p>学習サポート映像等のICTを活用した事前・事後学習の充実</p>	<p>&lt;「四日市公害と環境未来館」の見学&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校5年生 37校</li> <li>※中学校3年生 22校については、休館に伴い中止</li> </ul> <p>&lt;事前・事後学習&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学んでE-net!」にオリジナル動画（中学生用）を掲載</li> <li>・四日市公害学習のDV、学校見学代替学習用の学習サポート映像を作成</li> <li>・授業案展開例（中学生用）や学習用の資料・ワークシートを作成</li> </ul>

◆評価

「四日市公害と環境未来館」を見学し、小学校は四日市公害の被害の実態や患者の苦しみに重点を置いた学習、中学校は四日市公害裁判や環境改善の取組に重点を置いた学習を実施した。令和4年度は、「そらんぼ四日市」が工事で休館したため、全中学校22校の見学を中止とし、オリジナル動画や学習資料を配付、代替学習を実施した。

◆今後の方向性

【継続】これまでの取組を継続し、四日市公害の歴史と教訓や環境改善のまちづくりに関する学習を進め、環境を大切にしようとする意識を高める。令和5年度は、令和6年度の四日市公害と環境未来館の改修工事による休館を見越して、全小学校5年生、全中学校3年生に加えて中学校2年生11校の見学を実施する。また、四日市公害と環境未来館が作成したオリジナル動画や学習資料について、事前学習や事後指導と関連付けた活用を促進する。



四日市公害と環境未来館 見学

4 防災・安全教育の推進

＜めざす子どもの姿＞  
安全への理解を深め、的確な判断のもとに行動できる子ども

児童生徒が生き生きと活動し、安全に学ぶことができるようにするためには、児童生徒等の安全の確保が保障されることが不可欠です。

そのために、日常生活全般における安全確保のために必要な事項を実践的に理解し、自他の生命尊重を基盤として、生涯を通じて安全な生活を送る基礎を養うとともに、進んで安全で安心な社会づくりに参加し、貢献できるような子どもを育てます。

また、自然の持つ「恵み」と「災害」を理解し、郷土愛を育むとともに、「災害から生き抜く力」を身に付けることを目指します。

◆指標とその評価

指標	基準値 R 1	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	目標値	R 4 評価
「学校教育活動、学校経営の評価」における、「日常生活に生きる安全教育の充実」の質問項目での評価の平均値	小学校 3.5 中学校 3.1	小学校 3.4 中学校 3.3					小学校 3.8 中学校 3.5	

【評価】

各校が学校安全計画や防災教育計画に基づき、安全や防災への知識や実践力を高める指導が行えるよう、警察や関係機関と連携した交通安全教室や防犯教室の取り組みや、地域の「見守り隊」と連携した、通学路の危険箇所の確認や登下校指導等を推進した。

◆具体的な施策の現状

1. 防災教育の推進（災害安全）

実施状況	実績・成果
<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭・地域・関係機関との連携を図った安全教育の推進</li> <li>○各校の実態に応じた防災訓練等の実施</li> </ul>	<p>＜防災訓練の実施状況＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災訓練（地震・火災） 小学校 37 校、中学校 22 校</li> <li>・地域との連携した防災の学習 小学校 23 校、中学校 10 校</li> <li>・地域と連携した防災に関する訓練の実施 小学校 14 校、中学校 10 校</li> <li>・地域と防災に関する話し合い 小学校 8 校、中学校 4 校</li> </ul>

◆評価

家庭や地域との連携を図り、保護者や地域住民とともに行う防災教育を推進したことで、小中学校ともに約 50%の学校が、教材を用いた学習や訓練、地域の方との話し合いなど、地域実情に応じた取組につながった。また、防災教育に係る具体的な取組方法について担当者会を通じて周知を図ってきたことにより、防災教育に係る地域資源を活用し、地震体験車の活用や着衣水泳の実施などの体験的な活動が行われた。学習ポータルサイトの活用など ICT

機器を活用した防災学習も行われ、災害時に主体的に行動することができる子どもの育成を図るため、様々な学習方法の実践が報告された。

◆今後の方向性

【継続】子どもたちが、火災や地震、集中豪雨などの災害に関する知識を理解し、災害時に自ら判断し、適切に行動することができる力を育むため、各校園と家庭、地域が連携を図り、各々の役割を共有し、様々な状況を想定した防災訓練の充実に努めることができるよう、学校防災リーダーの設置や、防災研修会の実施を推進する。また、学校が体験的な学習や ICT 機器を活用した教育活動を行ったり、「防災ノート」や「家族防災手帳」の活用方法の周知を図り、子どもが保護者とともに防災について考えられる取組を行ったりする等、防災教育に係る教育的資源を活用した取り組みを行えるように、防災教育・防災対策の一層の充実に努める。

2. 日常生活における安全教育の推進（生活安全）

実施状況	実績・成果
防犯教育の推進 ○警察等と連携を図り、防犯訓練・防犯教室を実施	防犯訓練・防犯教室の実施状況 小学校 36 校、中学校 22 校

◆評価

警察等と連携した防犯訓練（不審者侵入対応訓練）、防犯教室の取組を推進した。また、「防犯等情報データベース」を活用して各校園及び地区市民センターなどで不審者情報等を共有し、防犯の指導に生かすとともに、緊急な情報共有が必要な場合は、学校情報配信アプリ（Home&School）により保護者等の関係者に情報を配信するなど、子どもの安全啓発に努めることができた。

◆今後の方向性

【継続】学校や地域社会での犯罪被害を防止するため、今後も警察等と連携した防犯訓練、防犯教室の取組が確実に行われるよう、周知徹底する。

3. 交通安全教育の推進（交通安全）

実施状況	実績・成果
関係機関と連携した交通安全教育の推進	<交通安全指導の実施状況> 小学校 37 校、中学校 22 校

◆評価

各校において、道路管理課や警察、交通安全協会、公安委員会指定の自動車学校等の関係機関と連携し、学校の規模や地域の実情に応じて、体験活動を重視しながら交通安全指導を行うことができた。また、学校・家庭・地域などが連携した登下校の安全指導が多くの地域で行われており、児童生徒が安全・安心に登下校することができた。

◆今後の方向性

【継続】通学路交通安全プログラムを活用し、保護者や地域、警察等と連携しながら、通学路の危険箇所の確認や登下校指導を引き続き行う。また、通学路の危険と安全な登下校の仕方について理解を深めたり、道路の安全な歩行の仕方や自転車の安全な乗り方など、交通ルールを守ろうとする意識を向上させたりするために、警察や関係機関等と連携した交通安全教室の実施や、自転車乗車中の事故防止のために「自転車安全利用五則」の周知徹底を図るなど、交通安全教育の推進を図る。